

○神奈川交運労協海外物流事情視察研究団

日 時 2016年09月12日(月)～15日(木)

視察場所 香港・マカオ

参加者 亀崎 友彦(全日通労働組合)・高橋 和彦(全日通労働組合)・山上 和也(全日通労働組合)

坂本 良介(全自交神奈川地連)・関 智之(国際自動車横浜労働組合)

本間 秀明(相模鉄道労働組合)・小山 国正(臨港バス交通労働組合)

木之下貴弘(東日本旅客鉄道労働組合)・倉茂 忠(東日本旅客鉄道労働組合)

星野 達也(横浜交通労働組合) 計10人

レポート 高橋 和彦

神奈川交運労協海外物流事情視察研究団に参加しました。

9月12日(月)8時00分に羽田空港に集合し、総員10名の団員を確認し、団長には運輸労連の亀崎友彦氏が選出された。主な日程と出入国での手続きについて説明を受け、準備万端で出発したが、飛行機が遅れ、香港に30分くらい遅れて到着した。空港では現地ガイドの陳さんが出迎えていただき、これから14日まで行動をとるとともに案内された。空港から専用バスに乗り、ホテルへ移動中、高速道路・一般道路ともに渋滞していた。外を眺めると細長い高層のマンションが乱立しており、地震をまったく考えていない町並みになっている。ガイドに地震の有無を尋ねると香港は大きな地震が起きないし、活断層もないとのこと。ただ、その日の夜、韓国で観測史上最大規模のM5.8の地震がおきた。香港も時間の問題では...



9月13日(火)午前中は香港市内を視察した。バスに乗り、香港島へ行くには途中海底トンネルを通らなければならず、その交通渋滞はすさまじいものでした。東名高速の東京料金所みたいにゲートが10箇所あるが、ゲート通過後2車線になるので強引な割り込みや飛び交うクラクション音で事故が起きないか気が気ではありませんでした。バスの中は緊張感が漂っているなか、陳さんは冷静に香港事情を案内していました。香港の車のナンバープレートは、普通アルファベット2文字と1～4桁の数字の組み合わせで、車でなく、車の所有者に付いてまわり、車を買えば、ナンバーを外して付け替えるそうです。そのナンバープレートは売買ができ、香港の方は縁起をかつぐことが好きでアルファベットの無い数字だけの「18」がオークションに出され、5億円で落札されたそうです。

午後は香港国際ターミナル社（HIT）と香港日本通運（株）を訪問し、視察を行いました。

HIT 社はクワイチンコンテナターミナルの9つあるターミナルのうち、4つのターミナルをオペレーションし、「次世代ターミナル管理システム」「活動監視システム」「船計画システム」など、最新の管理技術、最新技術のコンピュータシステムを使用して、総ロジスティクス・マネジメント・サービスを提供している。



事務所の中は薄暗い。  
船内をイメージしており、働いている  
方々も一体感をもって仕事に取り組ん  
でいる。



左) HIT 李さん 右) 日通旅行茂木さん

参加者の皆さん

香港日本通運（株）は 1979 年、香港へ日系企業が進出をはじめた頃に設立され、その後生産拠点は中国本土の広東省へシフトされ、香港日通も各地へ子会社をつくっていった。中国は内陸の方へコンテナターミナルを整備しつづけたことで、コンテナの取扱量は香港から上海や深センが上回り、現在は世界第6位となっている。質疑応答では、「45 フィートコンテナ」「横浜港の将来性」「交通渋滞問題」「労災対策」等の発言があり、私からも地震について改めて質問をし、回答をいただいた。

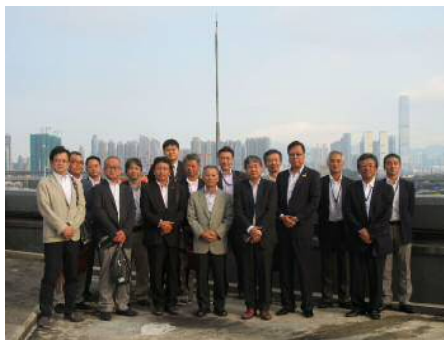


香港日通 社長 中島 猛 氏





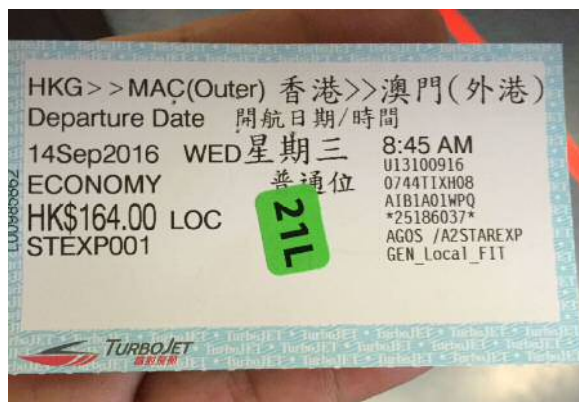
挨拶をする本間議長



9月14日(水)は、香港からマカオへ移動をする。交通渋滞や出国手続きなどの時間を考慮し、早朝にホテルをチェックアウトしバスに乗り込んだ。昨日と同じルートで海底トンネルを通過したが、時間が早かったのものでそれほど渋滞はしておらず、フェリーターミナルへスムーズに到着した。



乗船した高速船



8時45分発の予定が30分遅れて出発

予定時間より30分遅れでマカオに到着。マカオでは現地ガイドの何(ホー)さんが出迎えをしていただき、バスにてマカオ市内を視察しました。マカオはポルトガルの植民地であったことから、西洋と中国の文化が融合し、独自の歴史的建築物は、世界文化遺産に登録されている。ただ、世界遺産の街並みよりハデな建物のほうが目につく。複合リゾートホテルがあちこちに建っていた。

マカオの一人あたりGDPはアジアでナンバーワンである。日本が約400万円に対し、マカオが約850万円で、失業率も1.9%とほぼ完全雇用の状況である。観光業を中心とした産業構造であり、経済低迷が長引いているにもかかわらず、複合リゾートホテルのオープンラッシュが続いていることから、雇用や賃金への問題は生じていない。日本もようやく訪日外客数が年間で2,000万人と超えるところだが、マカオは1,450万人。ただ、マカオの面積は世田谷区の半分くらいしかない。やはりカジノが必要なのか(笑)





世界文化遺産 聖ポール天主堂跡



マカオの街並み



マカオの一人あたりGDPはアジアでナンバーワンである。日本が約400万円に対し、マカオが約850万円で、失業率も1.9%とほぼ完全雇用の状況である。観光業を中心とした産業構造であり、経済低迷が長引いているにもかかわらず、複合リゾートホテルのオープンラッシュが続いていることから、雇用や賃金への問題は生じていない。日本もようやく訪日外客数が年間で2,000万人と超えるところだが、マカオは1,450万人。ただ、マカオの面積は世田谷区の半分くらいしかない。やはりカジノが必要なのか(笑)

最終日の9月15日(木)は10時30分のチェックアウトであったので、今までで一番ゆっくりした朝でした。バスに乗り、フェリーターミナルへ10分くらいで到着した。フェリーターミナルから香港空港へ行くのだが、香港への入国はせず、マカオから出国手続きで、羽田空港で入国手続きをするだけでよいとのこと。たばこを吸う方にはうれしい話であった。実は香港に入国する際、持ち込んでよいたばこの数は19本であり、それ以上持ち込むと罰金を支払い、たばこも没収されてしまいます。マカオで免税たばこを購入し、日本へ持って帰れることをよろこんでいる方々が見受けられました。マカオから香港空港へのフェリー時間の関係で香港空港に約4時間の滞在をするはめに。飛行機も予定の出発時間には飛ばず、羽田空港に到着し解団式したのは22時15分、みなさんお疲れ様でした。



南シナ海の油田開発



マカオタワーの高さ233Mからバンジージャンプが出来る。費用は5万円です(笑)

